



なつのかも



本校ホームページ新
QRコードです。スマホ
などからも閲覧できま
す。ご活用ください。

褒めて育てる

校長 宮林 伸之

校庭の植物も生長し、日に日に姿を変えています。1年生が育てているアサガオは、ぐんぐんとつるを伸ばし1年生の子の身長を越えるほどです。2年生の花壇に植えてあるトマトやナス、ピーマンもたくさんの実を付けています。暑い日が続いていますが子供たちは元気いっぱいに過ごしています。

先日、光が丘警察署のスクールサポーターの方をお招きしてセーフティ教室を実施しました。今回は、5・6年生を対象にSNSのルールについて指導していただきました。そこでは、情報機器の便利さとそこに潜む危険さについて具体的な例を交えて話をしてくださいました。

話を受けて私は、改めて「SNS 夏雲ルール」について確認しました。そこには、自分を守る 相手を守る とあり、タブレットやスマートフォン、その他のインターネットに接続できるゲーム機器などの使い方のルールやモラルが示されています。また、家族を守る～保護者向け～として、フィルタリング等の利用や子供の利用状況の把握など記載しています。夏季休業中にこのような機器でのトラブルや事件が報道されることがあります。タブレットやスマートフォン等の使い方について今一度お子様と確認していただきますようお願いいたします。

話は変わりますが、今月の21日から夏季休業日に入ります。子供たちにとって様々な体験ができる貴重な期間です。しかし、長期休業中は、生活のリズムを崩してしまいがちです。保護者の皆様においては、「起きなさい」「早くしなさい」と叫んでしまうときもあるのではないのでしょうか。

先日、次のような記事が目にとまりました。

「育てる」はローマ字で「SODATERU」。

頭文字の「Sをとってみて」と。「ODATERU(おだてる)」に…

もちろん、甘やかすことではない。

子供たちのやる気が出るように褒め、可能性を伸ばしていくことが大切です。

おだてる(煽てる)を辞書で引くと「あることをさせようという意図をもって、人を盛んに褒めていい気にさせる」とありました。

研究所の報告によれば、褒められると金銭報酬を得たときと同じ脳の部位が活性化するそうです。褒め言葉は、目に見える贈り物に等しいのです。また、運動機能も褒めるとより上手に習得できることが成人のトレーニング実験で証明されています。褒めれば伸びるとよく言いますが上記のような結果が証明しているのです。

褒め方にも様々あります。①すぐに褒める ②結果より過程を褒める ③他者と比較しない…などが挙げられると思います。人は「見ようとするものしか見ない」と言われます。忙しくなると見えるものが少なくなります。私たち大人が、子供と向き合う時間を意図的につくって見守る努力を怠らないようにしていくことが大切だと思います。

夏季休業中は、学校の勉強以外のことを学ぶ機会ともなります。地域的な行事や伝統的な催しに参加したり、地元から離れて地方へ旅行したりする機会も多くなることでしょう。ぜひ、親子の絆を深めるとともに、親戚や地域の方々との交流も深め、お子さんの良さを更に発見し、褒めて自信を付けさせてください。そして、9月1日には、一歩も二歩も成長した子供たちと出会えることを楽しみにしたいと思います。